



この夏は個人的な理由により日本で過ごしました。

日本では連日、猛烈な暑さが続きました。

また台風など自然災害が各地で大きな被害をもたらしました。

フィンランドは暑い夏だったとは言え日本に比べればずっと爽やかですし、山火事を除けば台風、地震など自然災害もなく、恵まれているように思います。

気候に加えて日本でフィンランドとの大きな違いを感じたのは、Covid-19 への対応です。

日本では街に行く人々のうち相当が依然としてマスクをつけています。病院やクリニックではマスク着用が求められています。

また、知人から、お盆の家族親族の集まりで小学生の孫が食事中も食べ物を口に入れる時だけしかマスクを外さなかった、という話を聞きました。子供たちへのコロナの影響の大きさを感じたエピソードでした。

一方、コロナ感染の時は若い世代にとって決して失われた時代ではない、という文学作品がこのところ続けて出版されました。

そこでは、若者たちが自宅に引き籠り無為に青春を浪費したのではなく、それぞれ前に進んでいくことを模索していく姿が描かれています。

将来への希望を感じさせるこれらの物語を読む時間は、私にとって気持ちをそっと明るくしてくれる大切な夏のひと時でした。

2023 年 9 月

駐フィンランド大使 藤村和広

(補足)

次のような本です：

「この夏の星を見る」 辻村深月

「腹を空かせた勇者ども」 金原ひとみ

「私たちの世代は」 瀬尾まいこ

○今夏の東京

